

【集会報告】

米軍再編下の 沖縄と「本土」

～ 突出する軍隊の暴力～

[講師]

鳥山 淳 (新沖縄フォーラム『けーし風』編集運営委員)

太田昌国 (民族問題研究・反安保実)

2007年9月29日

於：文京区民センター

新しい反安保行動をつくる実行委員会では、この九月二九日に、「米軍再編下の沖縄と『本土(ヤマト)』」と題する軍隊の暴力から」と題する集会を文京区民センターで行った。

昨秋の安倍政権誕生以来、さらに加速された「戦争のできる国づくり」は、アジア太平洋戦争で国内では唯一の地上戦が戦われた沖縄で、そのグロテスクな姿を露わにした。

基地建設に反対する住民の阻止行動に対する軍艦の派遣と教科書検定における「集団自決」に対する軍による強制をなかつたことにする修正である。軍隊が民衆を守るどころか虐殺した過去を改竄することは、新たな戦争への道を歩む安倍政権にとっては必要不可欠のことであった。その過去を都合のいいように改竄しようとする試みに、沖縄民衆は、超党派でもたれた県民集会に一一万人が集まることでNO!の声を上げた。私たちの集会は、その県民大会と同日にもたれた。

基地・軍隊に対してNO! を突きつける沖縄との連帯を求めながら、日米安保体制に抗する運動を持続することが私たちのこの間の中心課題であり、これからもそうである。本集会もそのささやかな取り組みの一環として持たれた。ここに、講演いただいた二人の講師のお話を収録する。

なお、鳥山淳さんの発言については、当日の録音テープを編集部で起こしてまとめたもので、タイトル、中見出しを含め、文責は編集部にある。太田昌国さんの発言は、当日の発言を元に太田さん自身にまとめていただいたものである。

集会の参加者は、五〇名であった。

(編集部)